

個別ゼミ概要 (WEB掲示用)

作成日：2024年3月4日

授業科目名	如水会寄附講義「如水ゼミ」		
ゼミ名	国際関係		
講師幹事名	鈴木 庸一	大学教員	全学共通教育センター長 南 裕子
学期	R6 (2024) 年 春夏 ・ 秋冬	開講時間	水曜 4～5時限

【授業の目的・到達目標】

外交官とはどのような職業/活動かを理解する。国連の機能不全が懸念されるなどルールに基づく国際秩序の維持は大きな挑戦を受けている。コロナ禍の世界的蔓延、ロシアによるウクライナ侵攻、ハマスのイスラエル襲撃に端を発するガザ紛争は国際社会の在り方にどのような影響を与えているのか？複雑化する国際情勢、温暖化や人道危機など深刻化する地球規模の課題、不透明感を増す地政学的状況の中で断片的、皮相的なマスコミ報道や SNS 等により拡散される情報の裏にある国際社会の力学の本質を理解する目を養い、日本の利益を守る外交活動を理解し評価する視座を形成する。

【上記目的・目標達成方法】

外務省OB及び現役外務省員の各講師が日本の抱える主要外交課題について分担して解説し、自らの経験を基に国内での政策調整、海外の外交現場での外交折衝などの活動を具体的に紹介する中でそれらについての考察と理解を深める。またその一環として講師とゼミの学生のインターアクティブな議論、ロールプレイ等を行いゼミテンの主体的参加の機会を設ける。

【授業の内容と計画】

月日	講師名	卒年 学部	社名・役職 (※役職は作成日現在)	講義内容
4/24	鈴木 庸一	S50 (法)	元駐フランス大使 元経済局長 日本国際問題研究所客員研究員	(4限) オリエンテーション・日本外交の主要課題 (5限) ケーススタディ：経済外交交渉・多角的貿易体制とその制約要因 (世界貿易機関 (WTO) 次席日本代表や日EU 経済連携協定交渉の首席交渉官を経験した立場から論じる)。
5/8 (4,5限)	角 茂樹	S52 (商)	玉川大学、岩手大学、上智大学、川村学園女子大学 客員教授 元ウィーン代表部、国連、バーレーン、ウクライナ大使	ウクライナ情勢： 元ウクライナ大使の視点からロシアのウクライナ侵攻の原因、国際社会に与える影響について議論します。戦争法規 (Jus ad Belum)、人道法規 (Jus in Bello) の観点からロシアのウクライナ 侵略がいかに現在の法秩序を崩壊させるものであるかについて論じます。日本への影響として憲法9条と国際法との関係についても触れたいと思います。
6/5 (4,5限)				人権と人道法： 中国の人権問題が問題にされていますが、そもそも人権とは、何かにつて元ジュネーブ人権委員会 (現人権理事会) の日本政府代表を務めた経験から論じます。なぜ人権が重要なのかについて中世キリスト教神学にさかのぼり、世界人権宣言を中心に論じたいと思います。韓国との慰安婦の問題につて、これを外交的にどのようにとらえるかについても論じます。
双方の授業において、外交官の役割について				

個別ゼミ概要 (WEB掲示用)

				も触れたいと思います。
5/15 (4,5限)	竹内 春久	S50 (経)	元駐シンガポール大使	<p>[4限] 日本外交の基本的立ち位置：日本の置かれた地理的、地政学的条件を概観し、日本国憲法のもとにおける外交の制度的枠組み、指導原則を論ずる。</p> <p>[5限] 日本と近隣諸国との関係：テーマ「戦後の日本と近隣諸国との関係」概要：戦後の日本と近隣諸国との関係を中国、朝鮮半島との関係を中心に概観する。</p>
5/22 (5限のみ)	齊藤 貢	S55 (社)	元オマーン大使 元イラン大使 東洋英和女学院大学非常勤講師、 国士舘大学非常勤講師、 岡崎研究所コメンテーター	<p>昨年10月に始まったガザ紛争により中東情勢は一挙に緊迫化し、国際社会は関心を高めています。5月22日の講義では、ガザ紛争、フーシー派の船舶攻撃、シリアやイラクでの米軍とイランの代理勢力との衝突等現在の緊張した中東の情勢、ハマス、イスラエル、米国、イラン等のプレイヤー達の思惑、今後の見通しについて説明します。</p>
6/12 (5限のみ)				<p>6月12日の講義では、このような中東の不安定さの原因を第1次世界大戦後の英仏による恣意的な中東の分割(サイクス・ピコ協定)に求め、第2次世界大戦後に世界の覇権国となった米国と中東との関係、原油輸入の90%を中東に依存している日本と中東の「遠くて、遠くて、やはり遠い」関係について説明します。講師は、中東7ヶ国で勤務し、また、英オックスフォード大学と米コロンビア大学の中東研究所にも留学した中東の専門家です</p>
5/29 (4限のみ)	川村 泰久	S56 (法)	元国連大使 前駐カナダ大使 元駐インド公使 元外務報道官(安倍総理対外スポークスパーソン) 国連日本ユネスコ国内委員会委員	<p>(5/29) 講義「国連安全保障理事会の現状と課題」今年2月グテーレス国連事務総長は「安全保障理事会は麻痺している」と発言しました。ウクライナ、北朝鮮、ガザ情勢などで安保理は役割を果たせていません。国連及び安保理の仕組みと課題、その中で果たす日本の役割について最近の実例を交えて講義します。</p>
6/19 (4限のみ)				<p>(6/19) 実習「バーチャル国連安全保障理事会への出席体験」国連の基礎知識を得た後は、バーチャルに(教室で)国連安全保障理事会に参加しましょう。今後起こり得る国際的事態を想定して、課題を与えますので、皆さん一人一人が国連大使になり「国益」を代表し、プレゼンテーションと討論をして下さい。これを通じて外交官のリア</p>

個別ゼミ概要(WEB掲示用)

				ルを体験して下さい。また国連の会議に臨むにあたってエッセンシャルなことは何かについても解説します。
6/26	神谷 政廣	H24 (経) 政	外務省大臣官房総務課 課長補佐	[4 限] 外務省の組織体制に関する概要説明。 [5 限] エネルギー安全保障と気候変動外交の現状と課題について論じる。
7/3	坂本 紗恵子	H24 (法)	総合外交政策局人権人道課 課長補佐	[4 限] 外交とグルーピング、拡大する人権国際社会においては、分野を超えて、あるいは分野毎に、様々な形の仲間作り＝グルーピングがあり、重層的な構造の中で国益を追求していることに触れつつ、日本の立ち位置を考える。また、日本の人権外交の基本方針を概説し、昨今の人権理事会の決議を例に、規範形成や理想と現実のバランスについて考える。 [5 限] ロールプレイ ある国の人権状況悪化に対してどのように対応するか、政府及びその他のアクターの役割を割り当てて検討し、発表する
7/10 (4限のみ)	鈴木 庸一	S50 (法)	4/24の欄参照	総括 現在の日本外交の評価

【参考文献】

下記図書のうちそれぞれの講師が個別に推薦するものはその旨括弧内に記載してありますが、今回の国際関係ゼミの一連の講義は相互に関連しており、また特定の事象を複数の講義で様々な角度から取り上げるところがあるので、いずれの参考文献図書も読んでおくことはゼミ全体を通じて有益です。尚各講師が特定の講義に臨むに当たり特に読んでおいた方が良いと考える図書や部分がある場合にはゼミ学生幹事より改めて連絡することがあります。

- 外交青書及び防衛白書 (主として総論部分)
- 日本国際問題研究所 戦略年次報告 (日本国際問題研究所 HP より無料で見る事が出来る)
- Joseph S Nye, Jr.: Soft Power (要旨はネットで検索可能) 外交の本質を理解する上で有益
- 岡本行夫「現場主義の貫いた外交官」(朝日文庫) 現場感覚を持って外交官の問題意識を理解する上で有益
- 「危機の外交 岡本行夫自伝」(新潮社)
- 「ウクライナ侵攻とロシア正教会」角茂樹著 河出夢新書 (角講師推薦)
- 五百旗頭真(編) 『戦後日本外交史』第三版補訂版、有斐閣アルマ 2014年(竹内講師推薦)
- 田中明彦『アジアの中の日本』(日本の<現代>2)2007年NTT出版 (同上)
- 国分良成他『日中関係史』、有斐閣アルマ、2013年 (同上)
- 齊藤貢、2022年、「イランは脅威か—ホルムズ愛嬌の大国と日本外交」、岩波書店 (齊藤講師推薦)
- 酒井啓子、2013年、「中東の考え方」、講談社 (同上)
- 池内恵、2016年、「中東の大混迷を解く サイクス・ピコ協定100年の呪縛」、新潮社 (同上)
- 「国際連合」明石康著 岩波新書 (川村講師推薦)
- 「ウクライナ戦争から見てきた実現可能な安保理改革とは」 神余隆博 一般社団法人霞関会 (kasumigasekikai.or.jp) 2023年9月霞関会HP掲載 (同上)
- 「米中対立」佐橋亮著 中公新書 (同上)
- 「国際秩序」ヘンリー・キッシンジャー著 (2022年 日経BP社) (同上)
- 「The Room It Happened—A White House Memoir」John Bolton 著 2020年, Simon & Shuster 社 (同上)